



愛川ふれあいの村 今月の風景

# 2023年8月 自然のたより

暦の上では立秋（8月8日）でも、まだまだ暑い日が続きます。そして、今年の夏は観測史上最も暑い夏といわれています。そのため、世界各地で、洪水、干ばつ、猛暑による様々な災害や被害が発生しています。ふと気がついたことがあります。今年は蚊に刺されません。実は蚊は気温が35℃を超えると活動を止め、40℃を超えると死んでしまいます。外は蚊が夏バテするほどの猛暑です。9月に入っても今年は残暑が厳しそうです。暑さ対策はもう少し必要です。（高梨）



休むウスバキトンボ



囀るホオジロ



ギターの好きなオニヤンマ



ムラサキツバメ尾状突起



ビジョオニグモ



キツネノカミソリ



強いシオヤアブ



シオカラトンボ



オオシオカラトンボ



羽が痛んだオオムラサキ



コシアキトンボ



語り合うアオゲラ兄弟



リュウキュウサンショウクイ



ハクセキレイ（せきれい棟前）



混群を作るエナガ

## トピックス ★ミヤマクワガタ★

夏になると、九州の祖母の家で、かごいっぱいのカブトムシやクワガタムシを捕まえたことを、昨日のこのように思い出します。今にして思えば、なんと残酷なことをしてきたな・・・と反省しきりですが、子どもの頭では、とにかく沢山捕まえる事が面白くて、朝から晩までクヌギ林を何往復もしていました。

クワガタムシは、ノコギリクワガタが一番多く、コクワガタやヒラタクワガタが少し捕れたくらいで、当時「ミヤマクワガタ」の名前は知っていましたが、実物を見ることはありませんでした。

ふれあいの村では、夏になるとカラスに食べられたのか、頭部だけの「ミヤマクワガタ」を見ることはありましたが、生きた個体にはなかなかお目に掛かれず、この夏、やっと生きた「ミヤマクワガタ」に会うことができました。

少し黄色みがかった茶色で、大きなアゴとは別に、鎧のような突起が何とも言えずカッコいい。自然の造形美に、ただただ感動するばかりです。

ミヤマクワガタに限らず、見るものに感動を与えてくれる多くの昆虫と出会えるふれあいの村ですが、多種多様な生物がこれからも生きていけるような、そんな環境がいつまでも守られることを、切に願ってやみません。(袖山)



## 生き物 ★セミ★

セミの声を聞くと夏が来たと感じますね。

夏の初めにニイニイゼミの声を皮切りにアブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシと続き、ヒグラシの鳴く声をきくとそろそろ夏も終わりかなと感じます。セミは、木に卵を産んでそのまま冬越しします。次の年、卵からかえった幼虫は木から土の中にもぐり3年から10数年と過ごします。長い長い土の中の生活からやっと地上にでて木の上で成虫となり、1週間から1ヶ月くらい生きています。セミの種類によって鳴く時期や時間帯が違います。

ツクツクボウシ・ニイニイゼミは終日

ミンミンゼミは日中

アブラゼミは午後

ヒグラシは朝夕

今どのセミが鳴いているか、聞き分けてみてはいかがでしょうか。(菅原)



## 旬 ★夏野菜は身体を冷やす?★

みなさんは夏野菜と聞くと何を思い浮かべますか? きゅうり、トマト、ゴーヤ、ナスやズッキーニなど夏に旬を迎える野菜は数多くあります。よく「夏野菜は身体を冷やす」と言われますが、実はこれには栄養学的な根拠はないそうです。夏野菜に多く含まれるカリウムには、体内の水分バランスを整える作用があります。また、夏野菜には水分が多く含まれるため、水分補給になることから脱水予防には最適です。

大昔から改良されて育てられてきた畑作の歴史を紐解いていくと、人間の身体が欲しているものと、旬の食べ物というのは密接に紐づいているのかもしれない。

今はいつでも様々な食材が手に入りますが、せっかくなら旬の物を食べて、季節の移り変わりを感ぜたいものです。(小島)



来月の見どころ  
**トンボたちの生活**  
「夏日」とは、気温が二十五度以上のこと。「真夏日」は三十度以上「猛暑日」は三十五度以上と暑さの呼び方が違ってきた。人間にとって毎年変わるこの暑さは耐えがたい日々である。猛暑日の日、思い切って野外に出ると暑さで汗が噴き出してきた。木々の作った日陰道を歩くと涼しくて汗が引いてきた。自然の力は偉大であると感じた。池に来ると、オニヤンマが悠々と水辺の上を飛んでいたが、急に水の中にザブンと飛び込むと急上昇して彼方へと飛んで行った。池の周りの植え込みを通るとシオカラトンボが次々に飛んで行った、暑さ対策のため木陰で休んでいたようだ。その中の一匹が赤いものをくわえて飛んでいた。日陰にいたコノシメトンボを捕まえたようだった。生きるための生活は大変だ。最近、トンボが激減している。池や沼の減少、開発行為、水質の汚濁や河川の改修工事、地球温暖化や大気汚染、生き物を大切にしている心こそ人間生活の安らぎがあるといえる。(吉田)